

2012年10月26日

報道関係各位

アストラゼネカ株式会社
大阪市北区大淀中1-1-88
梅田スカイビルタワーイースト

アストラゼネカ 業績発表のお知らせ

昨日10月25日、アストラゼネカ英国本社が発表しました下記のプレスリリースのハイライトの日本語訳をご参考までにお送りいたします。

この資料の正式言語は英語であり、その内容およびその解釈については英語が優先します。英文のプレスリリースはこちらからご覧下さい。<http://www.astrazeneca.com>

なお、プレスリリース全文の日本語訳は11月中旬を目途に当社ホームページに掲出する予定です。
<http://www.astrazeneca.co.jp>

よろしくご査収のほどをお願い申し上げます。

記

AstraZeneca PLC
2012年第3四半期・9ヶ月累計業績

本件に関するお問い合わせ先
アストラゼネカ株式会社
コーポレートアフェアーズ本部 広報部
Tel: 06-6453-8011
Fax: 06-6453-8107

AstraZeneca PLC

2012年第3四半期・9ヶ月累計業績

ロンドン発2012年10月25日

予想通り、第3四半期の売上減少は、数製品の独占権の喪失の影響が継続していることを反映しています。継続的な営業経費の厳格な管理およびネキシウムのOTC販売権の売却益により、売上減少の中核営業利益に対する影響は軽減されました。通年の財務目標に変更はありません。

第3四半期の売上は恒常為替レート（CER）ベースで15%減の66億8,200万ドル

- 売上減少の要因は数製品の独占権の喪失とアストラテック及びAptiumの売却
- シムビコート、フェソロデックス、イレッサ、ONGLYZA™の売上は堅調
- 新興国市場の売上はCERベースで6%増。第3四半期、中国とロシアの売上は23%増。メキシコの低調な業績の継続により進行市場の売上成長率が2ポイント低下。

第3四半期中核1株当たり利益（EPS）はCERベースで8%減の1.51ドル

- 中核EPSは、自己株式の買戻しにより発行済み株式数が減少したことによりプラスの影響を受けました。

第3四半期の報告ベースのEPSはCERベースで50%減の1.22ドル

- 昨年第3四半期の報告ベースのEPSにはアストラテックの売却益による1株当たり1.08ドルが含まれていました。

ブリストル・マイヤーズスクイブとの糖尿病関連アライアンスの拡大は8月8日に完了しました。アライアンス営業チームはAmylinの糖尿病治療薬のプロモーションを米国で10月に開始しました。

本年1月～9月の正味自己株式買戻し総額は23億ドルでした。自己株式買戻しプログラムの中止を10月1日に発表しました。

中核EPSの通年目標は6.00ドル～6.30ドルのレンジを維持

ファイナンシャルサマリー

グループ	第3四半期	第3四半期	前年 同期比	CER %	9ヶ月累計	9ヶ月累計	前年 同期比	CER %
	2012	2011			2012	2011		
	100万ドル	100万ドル	%		100万ドル	100万ドル	%	
売上高	6,682	8,213	-19	-15	20,691	24,935	-17	-15
報告ベース								
営業利益	2,156	4,262	-49	-47	6,184	10,628	-42	-40
税引き前利益	2,048	4,169	-51	-48	5,864	10,315	-43	-41
1株当たり利益	\$1.22	\$2.56	-53	-50	\$3.77	\$6.17	-39	-36
中核*								
営業利益	2,632	3,177	-17	-14	7,898	10,177	-22	-20
税引き前利益	2,524	3,084	-18	-15	7,578	9,864	-23	-21
1株当たり利益	\$1.51	\$1.71	-12	-8	\$4.85	\$5.67	-14	-11

* 当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると考えられるGAAP（一般会計原則）とは異なる補足的な指標として中核財務指標も報告しています。2012年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標の定義及び中核と報告ベースの財務指標の調整については2ページと4ページをご覧ください。2013年第1四半期から使用される中核財務指標の定義へのグループの変更に関する最新情報は6ページをご覧ください。

最高経営責任者パスカル・ソリオの業績に関するコメント：「予想通り、当社の2012年の財務業績は、主要市場における数製品の独占権失効の影響の継続、及び医薬品業界全体が直面する困難な課題を反映しています。アストラゼネカに入社し、社員のコミットメント、才能及び熱意、さらに目標達成に向けた決意に深く感銘を受けています。最高経営責任者としての新たな役割を果たしていくにあたり、私の優先事項は当社をサイエンスにおけるリーダーシップを発揮する成長企業へと再建することです。」